

研究の経過と概要

1. 研究テーマ

「情報活用能力を高める研究」

2. はじめに

情報社会の進展により、私たちの生活や仕事の仕方は大きく変化している。情報化は、日本社会の発展とともに今後も急速に進展していくだろう。このような時代の中で、子どもたちは情報機器を身近なものとして活用する機会が益々増えてくると思われる。

教育活動において、「社会の情報化」という時代の動きを無視することはできない。それは、情報機器が人と人とのコミュニケーションをより活発にするという方向に拡大しているからだ。教育は、子どもたちへ知識や技能、考え方などの能力を教え育む活動だ。だから、教育にとって効果的な情報機器の利用は自然の流れとなる。ICTを活用することにより子どもたちの学習に対する意欲や興味・関心を高め、思考力や判断力、表現力を高める教育活動の実現が求められている。

効果的な ICT の活用例

- ・学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるために、コンピュータやタブレット、提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
- ・授業の中で、教員が資料を説明したり、課題を提示したりする場面や児童生徒の知識定着や技能習得を図る場面において、教員が ICT を活用する。
- ・わかりやすく説明したり、児童生徒の思考や理解を深めたりするために、コンピュータやタブレット、提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
- ・大きく映して提示し、見せたい部分を焦点化する。
- ・モデルとなる演技を動画で見せる 何度でも再生できる。
- ・児童の様子や作品、板書などを記録する 振り返りの活動。
- ・TV会議システムを使った、学校間の交流。

また、情報社会の影の部分への対応として、情報モラル教育の必要性が高まっている。情報技術や情報社会の特性を知らないままメディアを利用すると、そのつもりがなくても結果的にモラルを逸脱した行為や、安全を脅かす行為になってしまう恐れがある。この情報モラルについて、対応していくことも重要である。

3. 目的

児童生徒に思考力や判断力、表現力を身につけさせる指導方法の1つの手段として ICT を活用する。

4. 研究内容

(1) ICT を活用した授業実践

●具体的な内容 (2013～2016)

教科 学年	使用機器	内 容
体 育 2 年	携帯電話のカメラ (連続撮影)	逆上がりの様子を連続撮影し、一人ひとりのワークシートに活用し、気をつけるところを書かせ、練習に取り組む。
算 数 5 年	動画 (自作ビデオ) 大型ディスプレイ	自作の動画を撮影し、授業に役立てる。デジタル教材を使い、円周の特徴をとらえさせる。
算 数 6 年	ipad Coach my video 大型ディスプレイ	拡大図や縮図の描き方を撮影し、Coach my video の拡大や図形などの機能を使って説明 (発表) する。
総 合 3 年	スカイプ 大型ディスプレイ	山間の小規模校をスカイプでつなぎ、お互いの地域の良いところなど情報交換を行う。
総 合 4 年	はっぴょう名人 (プレゼンソフト) 大型ディスプレイ	自分の調べた都道府県の特徴や名産などをプレゼンソフトを使い、発表し、学習を深める。
社 会 6 年	ipad edutab 大型ディスプレイ	資料を大型ディスプレイとタブレットで提示し、内容を確認する。グループの考えをタブレット上に記入し、edutab を用い各グループの意見をディスプレイに提示し意見の交換をする。
国 語 5 年	ipad edutab 大型ディスプレイ	edutab を用い作品の中の季語から自身が抱いたイメージをディスプレイに表示し児童の思考を可視化する。また互いの作品を推敲しあう場を設定する。

(2) 情報活用能力の向上

●最新 ICT 機器について

- ・ ipad, edutab を使用した授業実践の紹介
- ・ 教育用アプリの紹介
- ・ テレビ会議システム (少子化・人口減少に対する活力ある学校推進事業)

5. 今後の予定

研究授業

松里小6年 (2017年2月8日 14:00～)

情報モラルに関する授業実践 (予定)

第5学年国語科学習指導案

山梨市立笛川小学校 教諭 古屋 達朗

1 単元名・教材名

言葉をよりすぐって俳句を作ろう 「日常を十七音で」

2 単元について

日本の伝統的な短詩形である俳句は、五音七音の組み合わせのリズムで構成され、短い言葉の中に様々な季節の情景や、詠み人の思いが込められている。本単元では俳句の鑑賞・創作に欠かせない季語に着目させていく。季語とは、俳句で「四季それぞれの季節感を表すために句に読み込む語」をいう。日本の国土の条件が生み出した様々な変化に対応して創り出されており作者の心情をも反映している言葉である。そこで児童には、「季語は単に季節を表す言葉ではなく、季語には日本独特の繊細な季節感や、作者の心情が込められていること」を鑑賞を通して実感を伴って気づかせていきたいと考えている。具体的には、作者が自分の心情を表現するためにふさわしい季語を選んでいることが5年生の児童にも分かる句を選び、上記の事を納得して受け止めさせたいと考えている。その上で、まず自分が表現したいことや自分の表現を明らかにさせ、その心情を表現するためにふさわしい季語を選んでいくという手順で俳句作りをさせていこうと考えている。

本学級のほとんどの児童が、俳句の学習が好きなようである。しかし、俳句について難しいと感じているところもある。本単元の学習は、俳句の決まりごとについて要求しすぎることなく、楽しむ気持ちを大事にしながら進めていきたい。また、今までに、自分が選んだお気に入りの俳句を発表したことはあったが、自分たちがつくったものを、発表し合ったことはないので、最後に発表する機会を設けたいと考えている。

第5学年及び第6学年の「書くこと」の目標は次のとおりである。目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。

以上のような「書くこと」の力を付けるため、学習指導要領に示されている指導事項のうち、本単元に関わるものは以下のとおりである。

- 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。
- 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。
- 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

本単元では、経験したことや想像したことを基に俳句をつくり、互いに読み合う言語活動を行う。身近な情景や生活の中での出来事を捉え、俳句の特徴を生かした創作を行うことによって、言葉の調子やリズムに親しみ、凝縮した表現で捉える面白さや楽しさを味わわせたい。創作することによって、俳句の特徴を一層理解し、俳句作品をはじめとする伝統的な言語文化に積極的に親しもうとする態度を養うことがねらいである。今回の学習では、そのねらいを実現し、自分の思いが伝わることや俳句の中から友達の思いを読み取れる面白さや楽しさを味わわせるために、書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うことを重点的に指導していく。俳句の理論や手順を詳細に検討するより前に、教科書に提示されているさまざまな俳句を楽しむところから入りたい。そして、俳句創作

に必要な表現技法を見つけ、「心に響く言葉や工夫された表現に気付く力」を身に付けさせたい。また、1学期から行っている名文の暗唱や俳句の音読も継続して行い、俳句の美しいリズムや響きに親しみ、さまざまな表現方法を見付けさせていく。学習した表現方法を使って、「自分の思いを効果的に表した俳句を創作する力」と「書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う力」を身に付けさせることをねらう。ここでは、俳句の決まりごとを厳密に要求しすぎることなく、五七五のリズムで表現遊びをするような気持ちで作品をつくったり、交流し合ったりして、楽しむ気持ちを大事にしたい。いわゆる「字余り」や「字足らず」も許されることを伝えると、児童には、俳句をつくるのがさらに容易に感じられるだろう。また、季語は一つの俳句に一つ入れるのがよいとされているが、あまり厳しく扱わず、二つ以上入る「季重ね（季重なり）」にもおおらかに対応したい。作品の交流では互いの作品のよさを認め合いながら、楽しく読み合う雰囲気を大事にし、表現の工夫についてさらに認識を深めさせたい。

3 単元に対する児童の実態及びICT機器活用の実態

児童は5年生になり、1学期から共通のテーマで俳句を書いている。また、「季節の言葉（春）」を学習した際には、図書室の本の中から俳句を選び、その句が気に入った理由を添えて発表した。それらの学習の度に、「季語」や「言葉」について指導してきた。俳句には季語が入るということは、ほとんどの児童が理解している。しかし、一度つくった俳句を推敲しようとしている児童は少ない。また、「季語は単に季節を表す言葉ではなく、季語には日本独特の繊細な季節感や、作者の心情が込められていること」を意識できている児童も少ない。そして、中にはまだ「うれしい」「楽しい」「きれいだな」などといった気持ちを直接言い表す言葉を使っている児童もいる。そこで、本単元の「俳句づくり」を通し、「言葉をみがき、言葉を楽しむ学習」を展開していきたい。「言葉をみがく」というのは、児童が言語表現を意識し、教師や友達との関わりの中で、言葉の意味や使い方などの新しい発見を繰り返していくことである。そして、主体的な言葉の使い手となり、自分の表現に生かし、一層工夫して表現する「楽しさ」を感じられる学習を展開したい。

児童はこれまでiPadを使った授業として、道徳のモラルジレンマ教材による授業を経験している。その授業はAとBの立場を、edutabを用いて学習者全体に見えるように可視化し、選択した立場の理由やそこに込められた自分の思いなどを、iPadを媒介として交流する授業である。よって、児童らはedutabの使用やiPadの基本操作については体得している状況にあるといえる。

4 単元の目標

- (1)五七五のリズムに親しみながら身近な情景や場面を捉え、俳句を創作しようとしている。【関心・意欲・態度】
- (2)言葉の選び方や順序について、確かめたり工夫したりすることができる。また、作った俳句を発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うことができる。【書くこと】
- (3)語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもちながら俳句を作ることができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

5 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

※ () の部分はAの状況, 他はBの状況を示す

	ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 書く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・五七五のリズムに親しみながら, 身近な情景や場面を捉え, 俳句を(進んで)創作しようとしている。	・言葉の選び方や順序について, (自ら)確かめたり工夫したりしている。また, 作った俳句を発表し合い, 表現の仕方に着目して(的確に)助言し合っている。	・語感や言葉の使い方に対する感覚などについて(十分に)関心をもちながら俳句をつくっている。
学習活動に即した評価規準	①俳句創作に興味をもち, (進んで)学習に参加しようとしている。 ②自分や友達の俳句を自分なりに味わい, 表現のよさや面白さを(自ら)感じ取っている。	①経験したことや心に残った出来事などから, 自分の思いを託すのにふさわしい情景や自分の心が揺さぶられた場面を選んで, 俳句の題材を(意欲的に)設定している。 ②(俳句創作のポイントをおさえて)俳句を書いている。 ③友達の作品を読んで, よいところを見付けたら, (書き手の表現をよりよくする)助言をしたりしている。 ④友達の俳句を読み, (適切に)鑑賞文を書いている。	①古典について解説した文章を基に, 昔の人のものの見方や感じ方を(十分)理解している。 ②言葉が時間の経過によって変化するものであることに気付き, (言葉への関心を深めている。) ③俳句をつくる際に用いた言葉が適切であるかどうかを感じ取りながら(言葉を選んで)書いている。 ④比喩やユーモア, 省略, 倒置, 対句などの表現の工夫に気付き, 自分の表現に(進んで)用いている。

6 単元の指導計画

時	学習活動	指導のポイント
1	・七五調, 五七調のリズムがある詩や歌, 俳句など情景を思い浮かべたりリズムを感じ取ったり, 音読をしたり暗唱したりする。 ・「季語一覧」を読み, 「季語」の多さや季語としてあがっている言葉の豊かさを知る。	・七五調のリズムの仕組みに目を向けさせる。 ・季語を集めたプリント集「季語一覧」から, 日本人のもつ繊細で豊かな季節感に気づかせる。

2	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句の基礎知識を知る。 ・「季語」が表す様子や作者の心情を理解する。 ・表したい自分の状況や心情を考え、それにふさわしい「季語」を選び俳句を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川柳や短歌と比較しながら、それらとの違いや俳句の特性に気づかせていく。 ・季語が作者の季節感や状況、心情を表す役割があること、季語にはそれらが込められていることを、具体的な俳句を基に気づかせていく。 ・季語の豊かさや季語がもっているイメージを感じ取らせる。 ・季語の役割を踏まえ、俳句で表現したい自分の気持ちや状況を、「季語」に置き換えさせる。
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・第2時の最後に選んだ季語を使って、作った俳句に込めた思いなどを考える。 ・季語とそれ以外の部分が重なっていないか、リズムはあっているかを考え、お互いにアドバイスし合い、推敲して俳句を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が表現したいことを「季語」を生かして、五七五の形式で創作させる。 ・季語が効果的に使われているか、リズムはよいかをアドバイスさせたり、俳句からどんな情景や心情が伝わってくるかを交流させたりする。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・第3時で完成した俳句を書写の時間で短冊に書いたものを使って、詠みの工夫などを考え、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季語や自分の作品に込められた思いが伝わるような読みの工夫を考える時間や場を設定し、よりよい発表が行えるようにする。

7 本部会の研究内容及び ICT を活用した指導の工夫

- ・本部会研究テーマ 「情報活用力を高める研究」
- ・本部会研究内容
 - ①情報機器の活用……授業に効果的な情報機器の利用とその活用方法
iPad, edutab 等の授業での活用方法
 - ②学習カードの作成……子ども達の学習理解を助けるためのもの
 - ③板書計画の作成……授業者が授業の構想や流れを理解しやすいもの
 - ④関連資料の収集……授業に関連のある HP, 関連資料の収集
 - ⑤情報活用能力の向上…活用できるソフトの紹介, 各校授業での利用方法の紹介
 - ⑥情報モラル教育についての研究と実践

・ICT を活用した指導の工夫

本授業は部会テーマ「情報活用力を高める研究」を目指し、「情報機器の活用…授業に効果的な情報機器の利用とその活用方法」に主眼を置いて授業実践を行う。本授業では、edutab を用いることで、作品の中の季語から自身が抱いたイメージを一斉にモニター等に表示し、児童の思考を可視化することで多様な感性に触れられる機会を設定する。また、その機能を用いて、互いの作品を推敲し合う足場、評価し合う足場を設定する。

①ICT 活用の目的

- ・季語の豊かさや, 児童一人ひとりが抱いた季語がもっているイメージを感じ取らせる。
- ・季語が効果的に使われているか, リズムはよいかなど推敲したり, 俳句からどんな情景や心情が伝わってくるかを交流させたりする。

②ICT を活用するメリット

- (全体) 興味関心を高める
- (見通す) 提示→学習内容・めあての明確化・共有
- ◎ (活動・観察) 記録する→可視化, グループなどの中での意見交換
- ◎ (まとめる) 再現する→思考の手助け, 思考の再構築

③検証方法

- ア 教科書・タブレット端末への書き込み (内容, 思考力の高まりを表す語句)
- イ 教師の見取り, 感覚 (児童の活動の様子, 視点, 発言)
- ウ 成果物の検証・分析
- エ 児童の振り返り, 感想

【授業づくりの視点】

- 協働学習の視点
- 言語活動の充実→思考力の向上
- タブレット端末の活用←同期型 CSCL による記載内容の可視化・・・会話の足場に

8 本時の指導

(1) 日 時 平成28年8月31日 (水) 5校時 14:00~14:45

(2) 対 象 山梨市立笛川小学校5年 児童26名

(3) 目 標

- 作った俳句を発表し合い, 表現の仕方に着目して助言し合うことができる。
- 語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもちながら俳句をつくること
ができる。

・ICT 機器の活用

(使用機器) タブレット端末, edutab, 大型ディスプレイ (プロジェクター+スクリーン)

(活用目的) グループ内, 一斉学習で視点や感じ方の違いを共有し, 作品の推敲や相互評価を行うために, 児童一人ひとりの作品を可視化する。

(4) 授業の展開 (第3/4時)

展開	児童の学習活動と内容	支援及び指導の留意点	評価規準と ICT 活用
つかむ 5分	1 本字の学習のめあてを確認する。	・第2時の最後に選んだ季語を使って, 俳句を作ること, 互いに作品を見合い推敲することを確認させる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自分で考えた作品への思いを友達と伝え合い, より工夫した俳句を作ることができる。 </div>		

<p>広める 深める 35分</p>	<p>2 個人で学習課題に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2時の最後に選んだ季語を使って作った俳句をタブレット上に書く。(edutab) ・季語や俳句に込めた思いを友達に伝えるための準備をする。(ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・季語と俳句それぞれに自分の思いを持てるように指導する。 ・edutab上では、多くの文字が記入できない為、思いについてはノートに書く様に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆edutab ☆iPad ◇ノートの記述 ◇タブレット端末の画面
	<p>3 班の中で発表し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット上に書いた俳句を互いに見せ合い、ノートを用いながら自分の思いを伝え合う。 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句を発表し合う中で、注目するのは季語、選んだ言葉、表記方法、込められた思いの4点であることを明確に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作った俳句を発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うことができる。
	<p>4 全体の場で発表する(自由交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・edutabで全員の俳句を提示し、お互いのものを見合う。 ・見合う中で気になった作品について直接話を聞き、互いに助言し合う。 ・ <p>5 助言をもとに俳句を推敲する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達からもらった助言をもとに俳句をもう一度振り返り、作品の練り上げを行い、もう一度タブレットに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句を発表し合う中で、注目するのは季語、選んだ言葉、表記方法、込められた思いの4点であることを明確に伝える。 ・行う助言は上記の4点であることも合わせて伝える。 ・友達からもらった助言をもとに俳句を推敲することを伝える。 ・もう一度タブレットに書く際には、変えた部分を赤色など色を変えて書くことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆edutab ☆iPad ◇タブレット端末の画面 ◇交流の様子 ○語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持ちながら俳句をつくることができる。
<p>振り返る 5分</p>	<p>6 再度書き込んだ俳句をみんなで鑑賞する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品について聞きたいことがあれば、質問を行い、質問された児童は質問への回答を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この発表は聞きたいことに関する質問並びに友達の俳句への評価をし合うことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆edutab ☆iPad ◇質問の様子 ◇発表の様子

(5) 本時の評価基準

○作った俳句を発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うことができた。

○語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持ちながら俳句をつくることができた。

◆東山梨教育協議会「情報化社会と教育・文化活動部会」研究授業の記録

2016年8月31日 於 笛川小学校

・研究授業についての協議

①授業者より反省

- ・「作品への思いを伝える」…児童の実態よりクリアしたい課題として設定。
- ・「より工夫した俳句をつくる」…児童の実態として推敲した経験がない、練り上げるという経験がなかったからこそ、児童間の交流を通して俳句の練り上げを行いたい。
- ・活動が多く、授業終末部の鑑賞まで至らなかった。できれば友達のアドバイスや仕上がったものを見るところまでやりたかった。
- ・4つある俳句の表現の工夫④（助詞の活用）までは至らなかった。ただし、①、②、③まで児童が考えられていたことはよかった。
- ・普段はいない特別支援学級の児童にとって、取り組むには難しい内容であった。ただし、友達が手伝ったり助け合ったりする姿勢が見られたことはよかった。

②質問

- ・教科書に助詞に着目した例として、ホタルの俳句が載っているが扱ったか。
→前時に扱い、一文字の違いが様子を大きく変えることを児童は感じていた。
- ・季語は夏に限定したのか。
→思い出を振り返りやすいのは「夏」と話はしたが、限定はせず、書きやすいものでよいと児童には伝えた。
- ・表記の順序とワークシートの順番が違う。
→一回想起した感情から作ったが、ズレが出ている。
- ・edutab の設定に要した時間はどのくらいか。
→授業開始前に7～10分かかった。今回で使用3回目だが最初より早くできるようになっている。しかし、最低でも5分はかかるのではないかと考えている。
- ・edutab では横書きだったが(縦書きに対応していない)、横画面でも縦書きの方がよかったのではないか。
→次時では縦書きに書き、書写の授業を連携し、短冊に筆で書く予定。その後、国語の授業で作品の発表会を行う予定である。

③授業の柱について

ア. ICT の活用について

- ・プリントと iPad の2つに文字を書いたり、操作をしたりするので通常なら面倒だが、ICT の活用が子どもの意欲を高めるのに一役買っていた。
- ・児童の iPad 上の書きなおしが多くて、タイムロスとなっていた。

- ・学習の途中、推敲のための直しの例を提示すれば、子どもの参考になったのではないか。
- ・iPad や edutab を使わない授業だと、表示するものが大きく示せないのが今回の様な ICT の活用はとても有効である。
- ・edutab にて 26 人全員の子どもの作品を映すのに、大きさの面で心配があったが案外よく見えていて驚いた。（環境はホワイトスクリーンと 1.5m～2m の位置でプロジェクターを使用した。）
- ・プロジェクターでは児童の画面の大きさが気にならずに見ることができた。紙媒体では全くできないので ICT の良さを感じた。
- ・班の発表はホワイトボードでもできるが、スクリーンショットで edutab にデータとして子ども達の画面を残せることがとても有効だと感じた。
- ・一人一台の iPad で、子ども達はとてもワクワク活動していた。
- ・準備時間の 5～10 分は、授業内で edutab を使うことで発生するメリットを考えれば全く無駄ではないと思う。

イ. 表現力を高めることについて

- ・俳句の基本は 5・7・5 だが、指導案上では字余り等も OK であると伝えたとになっている。授業の実際としては、5・7・5 に縛られている様子が見られた。
- ・edutab の一番の見せ所は推敲の前後を比べて見られる部分なので、そこがきちんとできていた。ただし、個別の前後の比較ができると尚更良いと感じた。
- ・初回の俳句はあまりレベルの高いものではなかったが、表現の工夫についてのルールがしっかりと示されていたので 2 回目の俳句はどの子もレベルが上がっていた。しかし、子どもの中には自分の工夫についてしっかりと説明できない児童もいた。
- ・2 回目の作品を書かせる際に、「1 回目と違う部分のみ赤字で記す」という指示があれば、画面を比較しなくても、個別の俳句の変化が edutab 上でも一覧表示にて把握できたのではないか。
- ・特別支援の子どもにも男子児童がしっかりとフォローしていて、とてもよかった。

ウ. 指導助言

- ・夏休み明けすぐ、改修工事も途中の中にもかかわらず授業を公開していただきありがとうございました。4 校が統合しても児童の仲がよいのが素晴らしいと感じた。
- ・今日の授業の中での ICT 活用はとても有効であった。（「全員の画面が見られる」「1 回目と 2 回目の作品を比較して見られる」点）
- ・何より授業中の子ども達が生き生きとしていた様子が感じられた。子ども達の興味関心が高められていると感じた。
- ・今後の展望として、各学校で使用するために、活用能力レベルがどのレベルの先生でも同じ様に使えることが大事である。
- ・俳句…コミュニケーションで相手の気持ちを読みとる+声に出して俳句を詠みこむことが大切なので、短冊に書くこともだが、俳句を詠むことも重要視して指導していただきたい。